

令和6年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

「小論文（地域学部地域学科地域創造コース）」出題意図

【問1】課題文は、現代社会において「地域課題の解決」や「地域活性化」が語られる際に人々の志向（思考）を規定している「知の枠組み」の問題点を、「地域活性化フレーム」という概念をもって繰り返し指摘している。この地域活性化フレームの問題点は、地域に住まう人々の様々な立場や心理、ひいては実践を、「活性化（課題解決）に寄与するか否か」という狭い枠に押し込めて評価してしまうことで、多様な現実をゆがめて解釈・提示してしまうことにある。つまり、「地域活性化」が説かれる際に、「異常」・「間違い」・「失敗」として見なされるケースが生じることで、否定され、排除される「生きづらさ」を抱えた人が生みだされてしまうことの問題である。このように地域を適切に認識する上での問題点を要約させることを通じて、受験者の地域理解に対する思考力・判断力、および表現力をみる。

【問2】著者の主張する「地域活性化フレーム」の観点を、受験者自身の地域課題を解決する活動（地域活性化）の理解に引き付けながら、自らの経験、意見を交えた問答を促すのが、この設問の意図である。回答ではまず、地域活性化に関する既存の知識を適切に要約・提示する力が求められるが、その内容を著者の説く「地域活性化フレーム」を通じて見つめ直すことにより、日ごろから課題を抱えている人々の現実に内在した深い知識となっているか、また、それを表現する技能があるかどうかをみる。加えて、「地域活性化フレーム」においては「異常」・「間違い」「失敗」とみなされてしまいがちな、他者との協働性に基づいた知的姿勢が受験生にみられるかどうかを確認する。以上を通じて、「パッケージ化」された回答ではないかたちでの地域課題の解決（地域活性化）の捉え方ができる主体性と、これらを総合的に論じられる創造性をみる。